

農業経営改善計画認定申請書

令和 年 月

記載例

伊達市長 菊谷 秀吉 様

住所
申請者
氏名 印
生 (歳)
<法人設立年月日 設立>
電話

農業経営基盤強化促進法（昭和55年法律第65号）第12条第1項に基づき、次の農業経営改善計画の認定を申請します。

農業経営改善計画						
①目標とする営農類型	水稲 + 露地野菜 + 肉用牛					
②経営改善の方向の概要	・レンタルハウスを活用して規模拡大を図り、農業所得の向上を目指す。					
	・保温資材を導入し、燃料費の節減に努める。					
	(年間農業所得及び年間労働時間の現状及び目標)					
		現状		目標 (令和〇〇年)		
	年間農業所得	3,000 千円	5,000 千円			
	年間労働時間	2,100 時間	2,000 時間			
③農業経営規模の拡大に関する目標	作付・部門名	現状		目標 (令和〇〇年)		
		作付面積 飼養頭数	生産量	作付面積 飼養頭数	生産量	
	水稲	100 a	4,500 kg	100 a	4,500 kg	
	トマト	100 a	60,000 kg	50 a	30,000 kg	
	ブロッコリー (2期)	100 a	8,000 kg	160 a	12,800 kg	
	長ネギ	100 a	30,000 kg	50 a	15,000 kg	
	キャベツ	100 a	50,000 kg	250 a	125,000 kg	
	スイートコーン	100 a	12,000 kg	100 a	12,000 kg	
	ホウレンソウ (3期)	120 a	12,000 kg	180 a	18,000 kg	
	肉用牛 (素牛)	20 頭	15 頭			
経営面積合計	720 a		890 a			

注意

○営農類型は販売金額上位3位まで下表にプルダウンリストから選択し入力してください。

営農第1位 水稲 営農第2位 露地野菜 営農第3位 肉用牛

← 4,800千円以上(新規就農者は2,400千円以上)

← 1,800時間~2,000時間とします。

※ただし、3^→農業労働力欄に記載の日数から読み取れる時間としてください。

注意

○年に複数回作付する場合は、年間の総作付面積とし、作目に作付回数(〇期)を記載してください。その他の畜産

○乳用牛は飼養頭数欄に繁殖雌数を、生産量に生乳量を記載。

○肉用牛において素牛販売を行う場合は、作目を肉用牛(素牛)としてください。

○肉用牛・養豚・養鶏は繁殖雌を飼養頭数欄に、出荷頭数を生産量欄に記載してください。

○経営面積合計は作付面積の計とし、実際の所有地・借入地の計と一致しなくても構いません。

○パイプハウスの間や、倉庫・作業スペース等、作付していない敷地の面積は含めません。

← 作付面積の合計としてください。(実際の経営面積と一致させなくても構いません)

営農類型のリスト

水稲
麦類作
工芸農作物
露地野菜
施設野菜
果樹類
花き・花木
その他の作物
酪農
肉用牛
養豚
養鶏

③ 農業経営規模の拡大に関する目標	区分	地目	所在地 (市町村名)	現状	目標 (令和〇〇年)		
	所有地	畑	伊達市	100 a	100 a		
	借入地	田 畑	伊達市 〇〇町	20 a 450 a	50 a 590 a		
	特定農作業受託	作目	作業	現状		目標 (令和〇〇年)	
		水稻	代かき・田植・稲刈	作業受託面積	生産量	作業受託面積	生産量
				80 a	4500 kg	50 a	4500 kg
	作業受託	作目	作業	現状	目標 (令和〇〇年)		
	たまねぎ	定植	100 a	100 a			
	たまねぎ	収穫	100 a	100 a			
	単純計			200 a	200 a		
換算後			100 a	100 a			
農畜産物の加工・販売その他の関連・附带事業	事業名	内容	現状	目標 (令和〇〇年)			
	〇〇直売所	スイートコーンの加工販売	なし	直売所においてスイートコーンを調理し提供 (年間2,000食)			
④ 生産方式の合理化に関する目標	機械・施設	機械・施設名		型式、性能、規模等及びその台数			
				現状	目標 (令和〇〇年)		
		トラクター (50PS)		1 台	1 台		
		田植機		1 台	1 台		
		コンバイン		1 台	1 台		
		トラクター (80PS)			1 台		
	パイプハウス (6.3m×50m)		5 棟	6 棟			
牛舎・バンカーサイロ		1 棟					
利用農地の条件	現状		目標 (令和〇〇年)				
	分散錯圃、傾斜地が多い、水はけが悪い		条件の良い農地があれば利用権設定し、集積化を図る。また、暗渠を設置するなど土地改良を実施。				
合理化・部門別	作目・部門名		現状	目標 (令和〇〇年)			
	トマト・ブロックリー		100 a / 100 a	段階的にトマトの作付を減らし、ブロックリーに一本化			
	ホウレンソウ		5 棟	ハウスを設備し増産する			

← 実際に耕作している耕地面積を記入して下さい (貸付地は除きます)。I
 ※ 前ページの経営面積合計と一致する必要はありません。□
 → 前ページの経営面積の欄に、積極的に所得に寄与していない作目を記入しないこと、また、□
 ハウス面積を実面積で記入する (例: 台帳面積20a→ハウスの実面積18a) ことより、必ず□
 しも一致するとは限らない。□

← 特定作業受託とは、基幹3作業 (代かき・田植・稲刈) を受託するとともに、生産した農産物を受託者名義で販売することです。前ページの経営面積、生産量に加算することができます。

← 「作業受託面積÷作業数」により換算した面積を記入してください。□

← ①農畜産物を原料または材料として使用して行う製造又は加工
 ②農畜産物の貯蔵・運搬または販売
 ③農業生産に必要な材料の製造等を行っている場合は記入してください。

← 現在所有している、主な農業機械・施設について記入してください。
 目標欄は、5年以内に新規購入や更新を予定している農業機械・施設を記入してください。
 また、共同利用、リース、レンタルの場合はその旨記入してください。

← 圃場の大きさ、団地化、通作距離等について記入してください。

← 作目ごとに、導入・拡大・縮小・撤退等の方向性があれば記載してください。

	現状	目標（令和〇〇年）
⑤経営管理の合理化に関する目標	○単式簿記 ○白色申告	○複式簿記 ○青色申告
⑥農業従事の態様等の改善に関する目標	○休日不規則 ○労働時間短縮	○週休制導入 ○パート従業員増による個人負担軽減

注意 左記の他、次の内容を参考にしてください。
 ○収量目標を設定するなど、経営目標を明確にした経営管理を行う。
 ○家族経営協定の締結
 ○社内会議（家族会議）を実施し、現状や目標・課題を共有する。
 ○法人化に向けた利点欠点を検討。

注意 左記の他、次の内容を参考にしてください。
 ○自家育苗から撤退し、労力軽減を図るとともに、土づくりなど事前準備を強化。
 ○作業の簡素化により、労働時間の削減を図る。
 ○労災保険の加入を検討。

⑦目標を達成するためにとるべき措置	経営改善の目標	措置
	農業経営の拡大 生産方式の合理化 経営管理の合理化 農業従事者の態様等の改善	制度資金や基盤強化法による利用権設定を活用 自治体の助成制度を活用 複式簿記導入に向け、研修会等に参加 作業効率化を進める為、詳細なスケジュール管理を実施

← ③～⑥の目標を達成するために講じる措置を記載してください。

(参考) 経営の構成	氏名 (法人経営にあっては役員の氏名)	年齢	代表者との続柄 (法人経営にあっては役職)	現状		見通し	
				担当業務	年間農業従事日数	担当業務	年間農業従事日数
	〇〇 〇〇	**	本人	全般	300	全般	250
	〇〇 〇〇	**	妻	梱包	250	梱包	200
	〇〇 〇〇	**	子	収穫	250	全般	200
	〇〇 〇〇	**	父	収穫	250	全般	200
雇用者	常時雇 (年間)	実人数	1	人	1	人	
	臨時雇 (年間)	実人数	2	人	4	人	
		延べ人数	360	人・日	540	人・日	

注意
 ○農業経営の構成欄には、本人及び家族労働者（法人の場合は代表及び役員）を記載。
 ○従業員については、雇用者欄に人数のみ記載。
 ○年間農業日数は1日8時間で算出。例えば10日で16時間労働の場合は2日としてください。

← 年間の延べ人数としてください。(1人×180日=180人・日)

(参考)	認定市町村名	認定年月日	備考
他市町村の認定の状況			

作物名	達成状況(平成)			年決算			目標(令和〇〇年)		
	生産規模	生産量	販売額	生産規模	生産量	販売額	生産規模	生産量	販売額
	a・頭・羽	kg・頭	円	a・頭・羽	kg・頭	円	a・頭・羽	kg・頭	円
水稲	100	4,500	54,000	100	4,500	58,500			
トマト	100	60,000	18,000,000	50	30,000	9,000,000			
ブロッコリー(2期)	100	8,000	2,000,000	160	12,800	3,840,000			
長ネギ	100	30,000	1,500,000	50	15,000	900,000			
キャベツ	100	50,000	5,000,000	250	125,000	12,500,000			
スイートコーン	100	12,000	420,000	100	12,000	480,000			
ホウレンソウ(3期)	120	12,000	1,200,000	180	18,000	2,160,000			
肉用牛(素牛)	20	15	0						
その他収入			0			0			
収入合計①			28,174,000			28,938,500			
租税公課			1,500,000			1,500,000			
種苗費			2,000,000			2,000,000			
素畜費			800,000			0			
肥料費			4,000,000			4,000,000			
飼料費			800,000			0			
農具費			500,000			500,000			
農業衛生費			600,000			600,000			
諸材料費			1,650,000			1,650,000			
修繕費			700,000			700,000			
動力光熱費			1,100,000			1,100,000			
作業用衣料費			50,000			50,000			
農業共済掛金			224,000			224,000			
減価償却費			2,000,000			2,364,500			
荷造運賃手数料			4,500,000			4,500,000			
雇人費			2,000,000			2,000,000			
利子割引料			50,000			50,000			
地代・賃借料			200,000			200,000			
土地改良費			0			0			
その他経費			0			0			
専従者給与			2,500,000			2,500,000			
支出合計②			25,174,000			23,938,500			
農業所得③(①-②)			3,000,000			5,000,000			
農外所得④			0			0			
家計費⑤			3,000,000			3,000,000			
農家経済余剰⑥(③+④-⑤)			0			2,000,000			

← その他の収入 = 雑収入 + 農産物の棚卸高(期首) - 農産物の棚卸高(期末)

注意 青色申告決算書を参考に記載してください。

← その他経費 = 上記以外の経費 + 農産物以外の棚卸高(期首) - 農産物以外の棚卸高(期末) - 経費から差し引く果樹牛馬等の育成費用

← 青色申告特別控除前の所得金額(1ページの農業所得と一致)